



日本植物分類学会 ニュースレター

No. 78

Aug. 2020

今号のトピックス

2020 年度日本植物分類学会講演会のお知らせがあります。

→ 3 ページ

第 20 回（2021 年度）日本植物分類学会賞（学会賞および奨励賞）の
受賞候補者の募集の案内があります。

→ 5 ページ

目 次

会長および評議員選挙の結果	2
評議員追加選出の結果	2
諸報告	
2020 年度総会議事抄録	3
お知らせ	
2021 年度大会について	3
2020 年度日本植物分類学会講演会のお知らせ	3
日中韓による植物分類学に関する国際シンポジウム延期のお知らせ	4
2020 年度日本植物分類学会野外研修会のお知らせ	4
第 20 回（2021 年度）日本植物分類学会賞（学会賞および奨励賞）の 受賞候補者の募集	5
寄稿	
シノニムリストをつくろう	6
書評	9
会員消息	12

会長および評議員選挙の結果

選挙管理委員長 志賀 隆

日本植物分類学会ニュースレター No. 77 で公示された日本植物分類学会会長および評議員選挙の開票結果についてお知らせします。

開票は 2020 年 7 月 20 日（月）に新潟大学教育学部（新潟市）において、本学会会員の五百川裕氏，加藤将氏の立ち会いのもとで行われました。開票の結果，以下の方々が次期会長および評議員に決まりました。

【会長】

当選 村上 哲明 47 票

次点 永益 英敏 39 票

（有効投票数 117 票）

【評議員】

当選 海老原 淳 52 票

黒沢 高秀 36 票

池田 博 34 票

永益 英敏 32 票

山田 敏弘 22 票

田村 実 21 票

綿野 泰行 21 票

布施 静香 19 票

次点 五百川 裕 18 票

高山 浩司 18 票

内貴 章世 18 票

（有効投票数 117 票）

評議員追加選出の結果

庶務幹事 海老原 淳

選挙管理委員長からの報告の通り，次期評議員として 8 名が選出されました。「役員等の選出についての細則」第 4 条の規定に基づき，8 名の合議によって下記の 4 名を評議員として追加選出しました。

高野 温子，田中 伸幸，坪田 博美，仲田 崇志（五十音順）

諸報告

2020 年度総会議事抄録

庶務幹事 海老原 淳

会場：ニュースレター誌上における開催

日時：2020 年 5 月 25 日～6 月 30 日

岡崎純子氏（大阪教育大学）を議長として開催された。議案への意見は特段寄せられず、全ての議案は前回一致で承認された。

お知らせ

2021 年度大会について

会長 伊藤 元己

2021 年度大会は、オンライン開催する方向で現在検討を進めております。新しい情報は随時メールニュース、ホームページでお知らせします。

2020 年度日本植物分類学会講演会のお知らせ

講演会担当委員 布施 静香

2020 年度の日本植物分類学会講演会は、大阪学院大学の林一彦先生にお世話いただき、会場での開催に向けて準備を進めております。今回は、2020 年度日本植物分類学会賞（第 19 回学会賞、第 14 回奨励賞）の受賞者を含む、6 名の先生方にご講演いただく予定です。今後の新型コロナウイルスの状況によりましては、中止あるいは開催形態の変更（インターネットを利用したビデオ配信など）の判断をせざるを得ないかもしれませんが、情勢を踏まえつつ可能な限り良い講演会が開催できるよう努力してまいります。詳細につきましては、次号のニュースレターでご案内いたします。一日も早いコロナ禍の収束を願っております。

日時：2020 年 12 月 19 日（土）午前 10 時～午後 5 時 15 分

講演会場：大阪学院大学 2 号館地下 1 階 2 号教室（02-B1-02 教室）

〒564-8511 大阪府吹田市岸辺南 2 丁目 36 番 1 号（電話：06-6381-8434）

講演スケジュールと演題

10:00–10:05 ご挨拶 伊藤 元己（会長）

10:05–10:50 李 忠建（京都大学）「ツクサ科植物の世界—系統で見直す多様性と分類」

10:50–11:50 堀 清鷹*（高知県立牧野植物園）「シダ植物の無配生殖種における網状進化の解明と分類学的整理」

(11:50–13:10 昼食)

13:10–14:10 山本 将也*（兵庫教育大学）「岩に生えるサクラソウの進化史・生態・保全」

14:10–14:55 志賀 隆（新潟大学）「モンゴル探訪記：大陸の水草を求めて」

(14:55–15:10 休憩)

15:10–16:10 綿野 泰行**（千葉大学）「分子マーカーが描くパターンに耳を傾ける」

16:10–17:10 高橋 弘**（岐阜大学）「植物誌から見えてきた岐阜県の植物相における特徴」

17:10–17:15 ご挨拶 林 一彦

（奨励賞*，学会賞**）

日中韓による植物分類学に関する国際シンポジウム延期のお知らせ

国際シンポジウム準備委員会委員長 池田 博

今年8月に韓国で開催するとアナウンスしておりました日・中・韓による植物分類学に関する国際シンポジウムについて、新型コロナウイルスの感染防止の観点から、今年の開催を取り止め、延期することにしました。

開催が来年になるのか再来年になるのか、まだ決まっておりませんが、詳細が決まりましたらまたアナウンス致します。連絡が遅くなりましたこと、お詫び致します。

2020 年度日本植物分類学会野外研修会のお知らせ

野外研修会担当委員 西野 貴子

2020 年度の野外研修会は、大変残念ながら実施を見送ることにいたします。

前号でもお知らせしたように、鹿児島大学の田金秀一郎氏に主催をお引き受けいただき、甕島列島にての研修会を計画してきましたが、この新型コロナウイルス感染拡大の状況下では難しいとの判断に至りました。

田金氏に立案いただいた魅力的な計画は、いずれこの禍難が落ち着きましたら催行できればと思います。

また、現行の研修会のあり方では開催は困難ですが、少しでも代わりになるような方式での研修会も模索したいと思います。ご提案やご意見など、ぜひお寄せください。

第 20 回（2021 年度）日本植物分類学会賞（学会賞および奨励賞）の受賞候補者の募集

会長 伊藤 元己

学会賞選考委員長 瀬戸口 浩彰

以下の 2 つの賞の受賞候補者を募集します。候補者は、学会賞選考規定第 2 条に基づき、以下に該当する方です。自薦、他薦を問わず、会員の皆様の積極的な応募・推薦を期待しております。これまでの受賞者名等は、学会ホームページをご参照ください。

「日本植物分類学会賞」：植物分類学および日本植物分類学会の発展に特に顕著な貢献が認められた者に授与する。受賞者の資格は、10 年以上継続して本会会員である者とする。

「日本植物分類学会奨励賞」：受賞年の 4 月 1 日において満 38 歳以下で、優れた研究業績をあげた将来有望な研究者（学生を含む）に授与する。受賞者の資格は、3 年以上連続して本会会員であり、主要な研究業績の一部を本会の大会または雑誌に発表している者とする。

募集要領

他薦の場合は、推薦する候補者の氏名と推薦理由、どちらの賞に推薦するかをお知らせください。自薦の場合は、(1) どちらの賞への応募か (2) ご自分の研究全体に関するタイトル (3) 略歴（生年月日、学歴、職歴など）(4) 調査・業績の概要 (5) 業績リスト（論文、著書など）と本学会の大会での発表記録 をワード・ファイルあるいは A4 用紙に記入して（書式は自由）お送りください。自薦、他薦を問わず、さらに必要な資料があれば、学会賞選考委員会から候補者の方に提出を依頼します。応募は、e-mail でのファイル添付、または郵便でお願いします。

書類送付先：〒 606-8501 京都市左京区吉田二本松町

京都大学大学院人間・環境学研究科 瀬戸口 浩彰 宛

e-mail: setoguchi.hiroaki.2c@kyoto-u.ac.jp

応募締め切り日：令和 2 年 9 月 30 日（水）

その他：両賞の受賞者は、令和 3 年度の日本植物分類学会大会において表彰されます。また、同大会において受賞講演を行っていただくことを原則としております。

寄稿

シノニムリストをつくろう (4)

外国文献とつきあわせる。確認をする (付: タイプ情報 [暫定] を記そう)

福島大学共生システム理工学類 黒沢 高秀

はじめに

いよいよシノニムリスト作りの最終回です。最後に行うのは、国外の分類学的な文献とつきあわせて、シノニムリストに文献を追加し、前回解説したシノニムリストに分類学的な見解 (「auct. non」 「sensu ..., non」 など) を盛り込むことです。また、暫定的で良いので、タイプの情報を記しましょう。

タイプ情報 (暫定) を記そう (本格的なものは、別の機会に ...)

原記載を再確認がてら、タイプの情報を記しましょう。基本的に、原記載に書いてある標本情報、採集地 (産地) を (体裁を統一した上で) そのまま記せばよいです。体裁の一例を下に示します。原記載に記述がない部分は空欄にします。

Type: 採集者 採集者標本番号, 採集日 (タイプの種類 標本室 + 標本室シート番号), 採集場所

f. **radicans** m. f. nov.
Stolones procumbentes emittens
Nom. Jap. Hai-Nagahashisumire (nov.)
Hab. Hônai-mura, Etigo (Herb. Nagasawa No. 2729)

上記の M. Nagas. in Yasô 4: 62 (1938) の記述に基づくタイプ情報の記述:

Viola rostrata Pursh f. *radicans* M. Nagas. in Yasô 4: 62 (1938); Hara, Enum. Sperm. Jap. 3: 215 (1954); Honda, Nom. Pl. Jap. ed. emend. (1963); Hashimoto, Index Violets Jap.: 18 (1967), sub var. *rostrata*. ----- Type: (Herb. Nagasawa 2728), Japan, Etigo, Hônai-mura.

慣れないと結構難しいことも多いです。先ほどより少し難しい例です。

Viola rostrata Pursh subsp. **japonica** W. Becker et H. de Boissieu ined.
Stipulæ lacerato-fimbriatæ, scariosæ; folia latiora; calcar brevius quam in *V. rostrata* f. *typica*.
Habit.: Japonia, Aomori, ubi U. Faurie sub. nr. 85, 30. V. 1897 legit. Planta in Mus. bot. berol. reservata est.

上記の W. Becker et H. Boissieu in Bull. Herb. Boiss. ser. 2, 8: 742 (1908) の記述に基づくタイプ情

報の記述：

----- *Viola rostrata* Pursh subsp. *japonica* W. Becker et H. Boissieu in Bull. Herb. Boiss. ser. 2, 8: 742 (1908); Nakai in Bot. Mag. (Tokyo) 36: (90) (1922); Makino & Nemoto, Fl. Jap. rev. ed.: 767 (1931); Nemoto, Fl. Jap. suppl.: 496(1936). ----- Type: U. Faurie 85, May 30, 1897 (Mus. Bot. Berol.), Japonia, Aomori.

タイプの情報を正しく記述するのはなかなか難しいので、意味を理解して体裁を整えようとせず、「なんだかかわからないけど原記載に書いてあることをコピーアンドペースト」という割り切りもありかと思います。タイプとは関係ない部分までペーストしてしまったりもするので、できれば知っている人に聞くのが一番良いです。

シノニムリストの作り方 4.1 「外国文献とつきあわせる」

- 4.1-1. これまでに作ったシノニムリストで挙げられた文献のうち、外国で出版された書籍や雑誌について、現物に当たって確認する（既に定番文献として現物に当たっているものを除く）。google scholar は、結構役に立ちます。古い文献で著名なものは BHL (Biodiversity Heritage Library, <http://www.biodiversitylibrary.org/Default.aspx>) で結構公開されています。
- 4.1-2. その際、巻号、出版年、著者などが正しいか良くチェックをすること。結構間違っていることがあります。
- 4.1-3. その際、「auct. non」や「sensu non」, 「pro. parte (p. p.)」, 「, “.....”」を積極的に使うこと。
- 4.1-4. 抜けているシノニムが引用されているときは、加えておく。
- 4.1-5. 取り扱いが疑問なところ、不明なところ、後で要検討なところなどは、前回のよう
に網掛などにしておく。
- 4.1-6. 手に入らなかった文献は赤字などにしておく。

シノニムリストの作り方 4.2 「確認をする」

- 4.2-1. IPNI (the International Plant Name Index, <https://www.ipni.org/>) でそれぞれの学名を検索して、作ったシノニムリストと合っているか確認する。違っていたら、あるいはその学名が掲載されていなかったら、原著をもう1度確認。なお、IPNI では古い時代の種内分類群の学名は基本的に掲載されていません。新しい時代の種内分類群の学名も、掲載されていないことがあります。
- 4.2-2. 作ったシノニムリストの同じタイプの学名群の列に、おなじ形容語の学名が並んでいるか、違う形容語の場合は新名 (nom. nov.) であるかを確認する。
- 4.2-3. 作ったシノニムリストの別のタイプの学名群の列に、おなじ形容語の学名がないか確認する。
- 4.2-4. よく見直す。カンマ、コンマ、セミコロン、イタリックなどの字体指定なども。

ナガハシスミレの例

ナガハシスミレ (牧野 1903) (ナガバシスミレ), テングスミレ, ナガヲスミレ, ヒロハナガバシスミレ, ハイナガハシスミレ (長澤 1938), エダウチナガハシスミレ (長澤 1938), シラユキナガハシスミレ (上野 1982)

***Viola rostrata* Pursh var. *japonica* (W. Becker et H. Boissieu) Ohwi**

Viola rostrata Pursh var. *japonica* (W. Becker et H. Boissieu) Ohwi [Fl. Jap.: 794 (Mar. 1953), comb. nud.] in Bull. Natl. Sci. Mus. Tokyo (33): 80 (July 1953), “*Viola rostrata* Muhl. var. *japonica* (W. Beck. et H. Boiss.) Ohwi”; Kitamura & Murata, Col. Ill. Herb. Pl. Jap. 2: 56 (1961); Ohwi, Fl. Jap. rev. ed.: 920 (1972); Momiyama in Satake et al., Wild Flow. Jap. Herb. Pl. 2: 251 (1982); Ohwi & Kitagawa, New Fl. Jap.: 1039 (1983); Ohwi, Fl. Jap. ed. Engl.: 639 (1984); Akiyama et al. in Iwatsuki et al., Fl. Jap. 2c: 183 (1999). ----- *Viola rostrata* Pursh subsp. *japonica* W. Becker et H. Boissieu in Bull. Herb. Boiss. ser. 2, 8: 742 (1908); Nakai in Bot. Mag. (Tokyo) 36: (90) (1922); Makino & Nemoto, Fl. Jap. rev. ed.: 767 (1931); Nemoto, Fl. Jap. suppl.: 496(1936). ----- Type: U. Faurie 85, May 30, 1897 (Mus. Bot. Berol.), Japonia, Aomori.

Viola rostrata Pursh f. *radicans* M. Nagas. in Yasô 4: 62 (1938); Hara, Enum. Sperm. Jap. 3: 215 (1954); Honda, Nom. Pl. Jap. ed. emend. (1963); Hashimoto, Index Violets Jap.: 18 (1967), sub var. *rostrata*. ----- Type: (Herb. Nagasawa 2728), Japan, Etigo, Hônai-mura.

Viola rostrata Pursh f. *ramosa* M. Nagas. in Yasô 4: 63 (1938); Hara, Enum. Sperm. Jap. 3: 215 (1954); Honda, Nom. Pl. Jap. ed. emend. (1963); Hashimoto, Index Violets Jap.: 18 (1967), “*ramos*”, sub var. *rostrata*. ----- Type: (Herb. Nagasawa 2729), Japan, Etigo, Honai-mura.

Viola rostrata Pursh f. *alpina* E. Hama [Wild Violets Jap. Col.: 48, t. 3 (1975), nom. nud.] in J. Jap. Bot. 51: 339 (1976). ----- Type: E. Hama, Jul. 26, 1962 (Herb. E. Hama), Central Hondo, Prov. Shinano, Mt. Happo-dake, alt. 1300-1600 m.

Viola rostrata Pursh f. *albiflora* Ueno in J. Jap. Bot. 57: 318 (1982). ----- Type: Y. Ueno, Apr. 28, 1974 (holo TUS69997), Japan, Honshû, Miyagi-ken, Shiroishi-shi, Mt. Hachimori, alt. ca 360 m.

[*Viola inconciana* F. Maek. et T. Hashim., Violets Jap.: 9 (1963), nom. nud.]

Viola rostrata auct. non Pursh, Fl. Amer. Sept. 1: 174 (1814); Makino in Bot. Mag. (Tokyo) 16: 137 (1902), “*Viola rostrata* Mühl.”; Matsumura, Ind. 2(2): 387 (1912); Miyabe et Kudo in Trans. Sapporo Nat. Hist. 6: 172 (1917); Makino & Nemoto, Fl. Jap. rev. ed.: 767 (1931); Nagasawa in Yasô 4: 62 (1938); Hara in J. Fac. Sci. Univ. Tokyo sect. 3, 6(2): 85 (1952); Hara, Enum. Sperm. Jap. 3: 215 (1954); Honda, Nom. Pl. Jap. ed. emend. (1963); Hashimoto, Index Violets Jap.: 18 (1967), var. *rostrata*; Hama, Wild Violets Jap. Col.: 47, t. 2 (1975), var. *rostrata*.

おわりに

これでシノニムリストが完成としたいところですが、自信がない場合はやはり知っている人に一度見てもらおうと良いでしょう。また、手に入らない文献があったり、取り扱いが疑問なところ、不明なところ、後で要検討なところがあるときも同様です。私も含めたシノニムリスト好きな分類学者は、喜んでお手伝いしてくれると思います。

4回にわたって、初心者向けのシノニムリスト作りの解説を行いました。これを見て、分子系統学的研究を行っている研究者が、研究の成果をもっと積極的に分類学的取り扱いに活かすきっかけになってくれると嬉しいです。また、多くの方がシノニムリストを見かけた際に目をそらさず、2回目や3回目に解説したラテン語や略号を参照して、その植物を巡る分類学的研究の歴史や学名をめぐるドラマなどに思いをめぐらしてくれると嬉しいです。

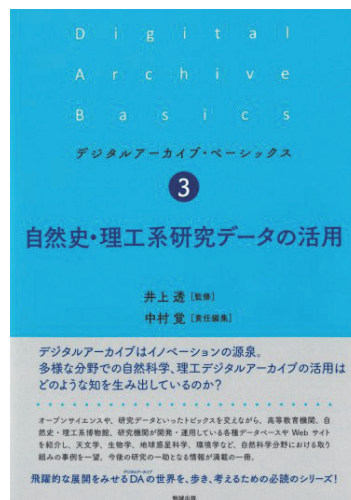
書評

デジタルアーカイブ・ベーシックス3 自然史・理工系研究データの活用

井上透 / 監修 中村覚 / 責任編集 勉誠出版 / 発行 ISBN : 978-4-585-20283-7
定価 : 2,750 円 (本体価格 2,500 円 + 税) A5 判 240 ページ 2020 年 4 月

兵庫県立人と自然の博物館 高野 温子

本書はタイトルの通り、自然史・理工系のデジタルアーカイブを紹介する本である。内容は魚類写真資料データベース (第4章)、自然史標本資料のデジタルアーカイブ (第5章)、南方熊楠データベース (第7章) といった本稿をお読みの植物分類学関係者に身近なアーカイブから、天文学分野のオープンサイエンス (第3章)、歴史資料を読み解きながらの歴史的オーロラ研究 (第8章)、森の感性情報アーカイブ (第6章) まで、多岐にわたる内容のデジタルアーカイブとその活用方法が語られる。デジタルアーカイブの要点は、オープンデータであること (第1, 2章)、つまり万人がアクセスし利用できることにあり、活用方法によっては思いがけず新しい知が創造される可能性を秘めている。8章の歴史的オーロラ研究の事例は、日本史資料のアーカイブが天文学の発展に役立っている好例と感じた。世の中にはこんなに多種多様なデジタルアーカイブが存在するのかもしれない、なんだかわくわくする。願わくば、将来それらをうまく活用した事例がもっと増えて、デジタルアーカイブとアーカイブ化された資料の価値が社会的に認められるようになればと思う。



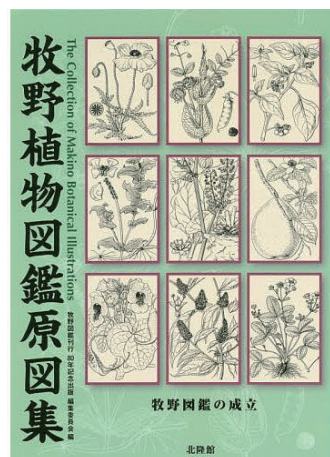
牧野植物図鑑原図集

牧野図鑑刊行 80 年記念出版編集委員会 / 編 北隆館 / 発行 ISBN : 978-4-8326-1054-5

定価 : 14,300 円 (本体価格 13,000 円 + 税) B5 判 504 ページ 2020 年 4 月

基礎生物学研究所 長谷部 光泰

本会元会長の邑田仁博士が、「ぼくの書いた本を送ってあげようか」とおっしゃるので、ほいほいと喜んで楽しみにしていたら、北隆館から「牧野植物図鑑原図集」(牧野図鑑刊行 80 年記念出版編集委員会編, 2020)が届いた。職場で弁当を食べながら、メ切間際のコロナ遠隔自動化概算要求書類作成の気分転換にちらちらと眺め、上手な絵だなあと感心した。邑田さんに感謝しながら、学生の頃に、「一緒に来ない」と誘われて台湾にただで連れて行ってもらったご恩などを思い出していた。



私は牧野植物図鑑とはほとんど縁が無かった、というより避けてきた。小学生の頃、野口英世と同じシリーズに入っていた牧野富太郎の伝記を読んだが、その業績と奇行は、野口英世と同じくらい「偉人」で、ロールモデルにも憧れにもならなかった。中学生の頃、毎週発売される週刊朝日百科「世界の植物」に心奪われ、もっと植物のことを知りたいと思い、高校生になって小遣いが月 3000 円になったのを期に「新改訂学生版牧野日本植物図鑑」を買った。久しぶりに研究室の本棚で探していたら、学生が嬉しそうに、「それ、先生少し勉強した跡がありますよ」と言うので開いてみると、「1. ばらもんじん」から、アンダーラインやら書き込みがしてあった。しかし、「18. わだん」で書き込みは終わっている。学生の嬉しそうな顔の意味がわかるとともに、記憶が蘇ってきた。牧野植物図鑑の図は、牧野式と呼ばれる花期と果実期の状態が 1 枚の図でわかるように工夫され、同定に必要な部分図が余白を埋め、絵の領域いっぱいに必要な情報が詰め込まれており、しかも、全体図は茎や葉のしなりかたが生植物を彷彿とさせる図である(本書 18 ページ)。たしかに今見ると素晴らしい図である。しかし、縦 17 cm 横 11 cm の半分のスペースに白黒線図が 6 枚、残りは記載という体裁だから、高校生の良い目をして、ハードルが高すぎた。しかも、検索表が無いので、「ばらもんじん」の次に「のげし」が出てくる意味が全くわからない。しかも、当時調べていた千葉港周辺の帰化植物はほとんど出ていなかった。そんな折り、痒いところに手が届く平凡社の「日本の野生植物」が出版され、「19. ちさ」以降は読まれることは無かった。くしくも、牧野がいた研究室の後継に進学し、大部屋の本棚に年季の入った「牧野日本植物図鑑」があるのに気づいてはいたが、大学院、助手時代に 1 度も開いたことはなかった。また、邑田さんと一緒に行った野外実習も、使うのは保育社と平凡社の図鑑で、牧野図鑑は図鑑争奪戦に敗れた学生が使うものだった。

概算要求書類も完成し、そろそろお礼を書こうかと思っていたら、邑田さんから「長谷部くん、本届いた？分類学会ニュースレターに書評書いてね。」というメールが届いた。「えっ」と絶句しつつも、学生の頃、台湾に連れて行って貰った最終日に、「長谷部くん、これ税関で気をつけてね」と言われ、両手でやっと持ち上げられるような、ピーナッツバターがぎっしり入った大きな段ボール箱を渡されたのを思い出した。

というわけで、GoTo キャンペーンの4連休を使って本書を精読した。本書は北隆館の創業130年記念事業として、門外不出の牧野図鑑の原図を公開する企画として開始し、邑田博士を委員長とする牧野図鑑刊行80年記念出版編集委員会によって編集されている。牧野富太郎は生涯にいくつかの図鑑を刊行しているが、年代を経るにつれて、図版も変化している（本書11ページ）。北隆館に保存されている約3000点の原画から選んだ約180枚を縦糸として、代表的な図版の変遷を記載したのが本書である。個々の図版は牧野本人によるものもあるが、数人の植物画家によって描かれたもの、既出版物から模写されたものなどが含まれており、植物画家と各図との関係が本書の横糸となっている。とりわけ、東大博物館で発見された山田壽雄の約100点の原図を収録し、牧野図鑑の図との関係を記載・考察するとともに、池田博・田中純子両氏が山田の図の特徴と牧野図鑑との関係を総説している。また、田中純子氏は牧野日本植物図鑑の他の植物画家についても総説している。A4サイズの光沢紙のほぼ全ページに図が配置され、美術書のような申し分無い印刷と製本である。

邑田さんがずっと牧野植物図鑑の改訂に関わってきたことは知っていたが、本書を読んでその理由が解った気がした。邑田さんは分類学者であるとともに美術家でもある。先述の台湾調査（私費）も旅行の半分以上は骨董品の収集に時間を費やしていた。邑田さんは、牧野図鑑を植物図鑑の枠を超えた美術品として捉えているのではないだろうか。そして、ゴッホの1枚1枚の画がどのような変遷で完成したかを研究するように、牧野図鑑の図を美術品として捉え、1枚1枚の制作と掲載の経緯を明らかにすることの意義と価値を見いだしたのではないかと推察した。インターネットで牧野富太郎を検索すると20万件以上がヒットし、その生涯は、今後もおそらく多くの国民の関心を得ていくことだろう。そして、牧野富太郎ファンは世代を超えて生み出されていくに違いない。そのような牧野ファンにとって、本書は必須アイテムである。牧野図鑑の図を見て、この図はねえ、などと蘊蓄を語れるようになってこそ一流のファンと呼べるだろう。

一方、どちらかというと牧野を敬遠してきた私にとって、この本のすばらしい原図を見たことは新たな発見であり、牧野図鑑の他の図もじっくり見て見たいと思うようになった。何に使おうかと思案していた10万円、原色牧野図鑑をお買い物カゴに入れてみた。

ぜひ、本会会員の皆様におかれましても、本書をご一読されることをお勧めします。

編集室より

今号は黒沢先生の「シノニムリストをつくろう」の最終回を掲載しております。また、高野先生、長谷部先生から書評をいただいております。ぜひお見逃しなく！

(ニュースレター担当幹事 山本 薫)

入会申込, 住所変更, 退会届, 会費納入, 購読申込
などは下記へご連絡ください。

〒576-0004 大阪府交野市私市 2000

大阪市立大学 理学部附属植物園

日本植物分類学会 厚井 聡 (会計幹事)

Phone: 072-891-2681, Fax: 072-891-7199

E-mail: kaikei@e-jsps.com

会 費：一般会員 7,000 円, 学生会員 3,000 円,

団体会員 8,000 円

郵便振替口座番号：00120-9-41247

加入者名：日本植物分類学会

令和 2 (2020) 年 8 月 20 日印刷

令和 2 (2020) 年 8 月 25 日発行

編集兼 神奈川県横須賀市深田台 95
発行人 横須賀市自然・人文博物館
山本 薫

発行所 茨城県つくば市天久保 4-1-1
国立科学博物館植物研究部
日本植物分類学会

*ニュースレターに掲載された記事の著作権は日本植物分類学会が管理いたします。